

酸性白土×光触媒

深呼吸®

白土漆喰

呼吸  
COKYU

## 施工マニュアル

新設の石膏ボード編

笑緒一

WATSHOI

# 商品紹介

商品名	容量	施工方法・面積
酸性白土 深呼吸	10kg/袋	● コテ塗り：約7㎡/袋
白土漆喰 呼吸	10kg/袋	● コテ塗り：約10㎡～12㎡/袋
S P ・下地ジョイントパテ材 ・下地調整材	5kg/袋	● パテジョイント処理の場合：約50㎡/袋 ● 下地調整の場合：約10㎡～12㎡/袋 ● SPシーラーの場合：約20㎡～25㎡/袋 (SPとシーラーを混ぜてローラーで塗布する場合)
S K 深呼吸・呼吸 専用下地シート	50m/本 46㎡/本	● SKシート寸法 50m×920mm×0.3mm 貼り面積 46㎡/本 (施工マニュアル別紙用意)

施工面積は、一般的な施工面積の目安となっております。初めてのご使用の場合には、パターンの大小や塗り方などによって増減しますので10%程度多めに積算することを推奨しております。

# 施工基準

## 新設の石膏ボード（3種類の施工）

- ①シーラー(3倍液)塗布→ジョイントパテ処理→上塗り仕上げ
- ②シーラー(3倍液)塗布→ジョイントパテ処理→下地塗り処理→上塗り仕上げ
- ③SK(専用下地シート)→上塗り仕上げ

深呼吸 呼吸

<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

## 石膏ボード上のクロス面（3種類の施工）

- ①SPシーラー塗布→上塗り仕上げ
- ②シーラー(3倍液)塗布→下地塗り処理→上塗り仕上げ
- ③クロスメクリ→SK(専用下地シート)→上塗り仕上げ

<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

## 古壁(砂壁・繊維壁・じゅらく壁・京壁)

- ①既存壁メクリ→シーラー(3倍液)塗布→下地塗り処理→上塗り仕上げ

<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
-----------------------	-----------------------

## ラワンベニヤ

- ①灰汁止め処理→シーラー(3倍液)塗布→SK(専用下地シート)→上塗り仕上げ

<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
-----------------------	-----------------------

## コンクリートおよびモルタル面

- ①灰汁止め処理→シーラー(3倍液)塗布→SK(専用下地シート)→上塗り仕上げ

<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
-----------------------	-----------------------

## ケイカル板

- ①灰汁止め処理→シーラー(3倍液)塗布→SK(専用下地シート)→上塗り仕上げ

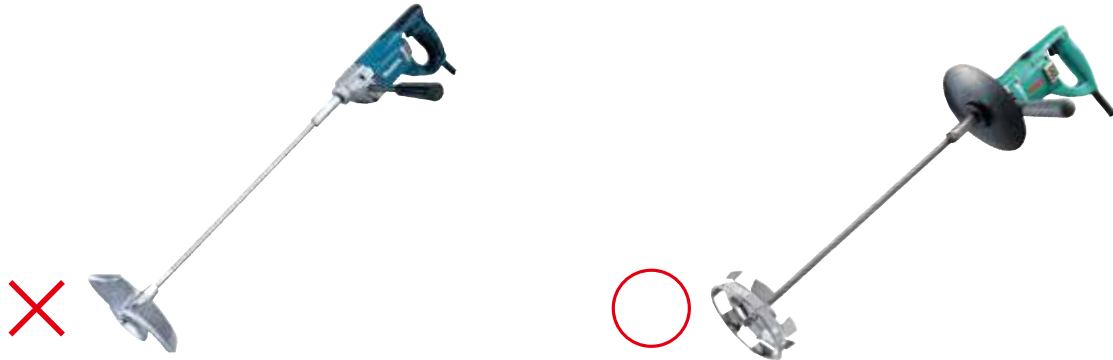
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
-----------------------	-----------------------

# ■仕上げ材および下地処理材の作り方

## <施工時の注意事項>

材料を練るのに左側のプロペラ式の羽の攪拌機を使用すると練り玉ができることがあるために使用しないでください

右側のプロペラ式の羽の攪拌機で材料を練って下さい



酸性白土  
深呼吸

1. 基準水量(5.5ℓ～6ℓ)を大きめの容器に入れます  
(季節によって水量を調整してください)
2. 水の入った容器に深呼吸を投入して5分以上、材料のかたまりが無くなるまで入念によく練ってください
3. 10分程、練り置きをします
4. 再度2～3分攪拌をしてから塗りはじめてください

白土漆喰  
呼吸

1. 基準水量(5.5ℓ～6.5ℓ)を大きめの容器に入れます  
(季節によって水量を調整してください)
2. 水の入った容器に呼吸を投入して5分以上、材料のかたまりが無くなるまで入念によく練ってください
3. 10分程、練り置きをします
4. 再度2～3分攪拌をしてから塗りはじめてください

# ■仕上げ材および下地処理材の作り方

## シーラー3倍液

1. シーラー1ℓを容器に入れます
2. 水2ℓをシーラーの入った容器に入れます
3. シーラーと水をよくかき混ぜ合わせるとシーラー(3倍液)の完成です

## SP専用ジョイントパテ材

※混合比率

- A ジョイント目地埋め用パテ材      SP 1kg : シーラー(3倍液) 400cc
- B 不陸調整用                              SP 1kg : シーラー(3倍液) 500cc

1. 目地埋め用パテ材の場合は容器にSP 1袋(5kg)に対してシーラー(3倍液) 2ℓを入れます
2. 不陸調整材の場合は容器にSP 1袋(5kg)に対してシーラー(3倍液) 2.5ℓを入れます  
※目地埋め用パテ材から不陸調整材を作るにはシーラー(3倍液)を500cc足してください
3. シーラー投入後、入念に攪拌してください
4. SP(目地埋め用パテ材および不陸調整材)のできあがりです

## SPシーラー

※混合比率

SP 1kg : シーラー(3倍液) 800cc

1. 容器にSP 1袋(5kg)に対してシーラー(3倍液) 4ℓを入れます
2. シーラー投入後、入念に攪拌してください
3. 下地調整材として代用することができるシーラーが出来上がりです  
このシーラーを『SPシーラー』と呼びます

## 【注意事項】

ジョイントパテ処理→上塗り仕上げ施工の場合、下記の事が発生する恐れがありますので事前によく考慮をした上で施工を行ってください

- ジョイント部のクラック(ヒビ割れ)が生じやすい
- ジョイント部のラインが消えない状態になることがある
- 上塗り仕上げ後表面が光っている状態になることがある

上記の現象を避けるにはSK(専用下地シート)の施工をおすすめします

- 入隅部に関しましてはクラック(ヒビ割れ)が生じやすい
- 室温が15℃以下になる恐れがある場合は、乾燥が遅く白華発生および凍害の原因となりますので、施工する場合は温度管理を厳重に行ってください
- パテ処理後、半乾きの状態で上塗りをすると吸水の加減でジョイント処理部分のラインが乾燥後も消えない場合があります。十分に乾燥をさせてから上塗り作業を行ってください
- 上塗り作業を行う場合また作業後の換気や室温には十分に配慮をしないと乾燥後に表面が光った状態になります。この状態で仕上がると壁材の機能が1/3に低下します
- 仕上げ材は1回塗りで仕上げてください。パターンづけは塗り付けた流れで行ってください
- おっかけ塗りは時間をおかずに乾燥する前に行ってください
- 半乾きの状態で鏝で触ると色ムラや模様の変化の原因になるので触らないでください
- 霧吹き等で水かけをしながらの施工は色ムラの原因になるので行わないでください
- 一度練った材料はその日に使用してください。練り置きはできません

### STEP①

#### ◆シーラーを塗布

Vカットした切り口、その他、出隅、入隅など石膏が露出している箇所は水引きが激しいため、シーラー3倍液をハケでたっぷりと塗って下さい

### STEP②

#### ◆ジョイント処理1回目

- A** ジョイント目地埋め用パテ材 SP 1kg : シーラー (3倍液) 400ccをダマにならないように攪拌機でよく練りVカット部分に詰め込みビス頭も処理してよく乾燥させてください

### STEP③

#### ◆ファイバーテープによる補強

市販のファイバーテープをジョイント部に貼って下さい  
(クロス・ペンキ用のナイロン製等は使用不可)

### STEP④

#### ◆ジョイント処理2回目

- B** 不陸調整材 SP 1kg : シーラー (3倍液) 500ccをダマにならないように攪拌機でよく練り、ファイバーテープを隠すように15cm~20cmの幅広に塗って下さい。十分に乾燥をさせてください

半乾きの状態で上塗りをすると吸水の加減でジョイント処理部分のラインが乾燥後も消えない場合があります。十分に乾燥をさせてから上塗り作業を行ってください

※乾燥時間 1日~2日

### STEP⑤

#### ◆上塗り仕上げ

基準水量 (6ℓ~6.5ℓ) を守り材料を攪拌機で5分間よく練り約10分間練り置きをして、再度2~3分攪拌機で練った後にご使用ください  
(季節により練りかげんをよく確認し水の調整を行いよく練ってご使用ください)

## 【注意事項】

ジョイントパテ処理→下地塗り処理→上塗り仕上げ施工の場合  
下記の事が発生する恐れがありますので事前によく考慮をした  
上で施工を行ってください

### ●ジョイント部のクラック(ヒビ割れ)が生じやすい

上記の現象を避けるにはS K(専用下地シート)の施工をおすすめします

- 入隅部に関しましてはクラック(ヒビ割れ)が生じやすい
- 室温が15℃以下になる恐れがある場合は、乾燥が遅く白華発生および凍害の原因となりますので、施工する場合は温度管理を厳重に行ってください
- パテ処理後、半乾きの状態で上塗りをすると吸水の加減でジョイント処理部分のラインが乾燥後も消えない場合があります。十分に乾燥をさせてから上塗り作業を行ってください
- 上塗り作業を行う場合また作業後の換気や室温には十分に配慮をしないと乾燥後に表面が光った状態になります。この状態で仕上がると壁材の機能が1/3に低下します
- 仕上げ材は1回塗りで仕上げてください。パターンづけは塗り付けた流れで行ってください
- おっかけ塗りは時間をおかずに乾燥する前に行ってください
- 半乾きの状態で鏝で触ると色ムラや模様の変化の原因になるので触らないでください
- 霧吹き等で水かけをしながらの施工は色ムラの原因になるので行わないでください
- 一度練った材料はその日に使用してください。練り置きはできません

## STEP①

### ◆シーラーを塗布

Vカットした切り口、その他、出隅、入隅など石膏が露出している箇所は水引きが激しいためシーラー3倍液をハケでたっぷりと塗って下さい

## STEP②

### ◆ジョイント処理1回目

- A** ジョイント目地埋め用パテ材 SP 1kg : シーラー (3倍液) 400ccをダマにならないように攪拌機でよく練りVカット部分に詰め込みビス頭も処理してよく乾燥させてください

## STEP③

### ◆ファイバーテープによる補強

市販のファイバーテープをジョイント部に貼って下さい  
(クロス・ペンキ用のナイロン製等は使用不可)

## STEP④

### ◆ジョイント処理2回目

- B** 不陸調整材 SP 1kg : シーラー (3倍液) 500ccをダマにならないように攪拌機でよく練り、ファイバーテープを隠すように15cm~20cmの幅広に塗って下さい。乾燥が悪いと色ムラになるので十分に乾燥をさせてください

半乾きの状態で上塗りをすると吸水の加減でジョイント処理部分のラインが乾燥後も消えない場合があります。十分に乾燥をさせてから上塗り作業を行ってください

※乾燥時間 1日~2日

## STEP⑤

### ◆下地塗り処理

市販の下地調整材を丁寧に面を押さえて塗って下さい  
下地調整材を塗り終えて1日~2日完全に乾燥をさせてください  
色ムラ・コテムラの原因になります  
(推奨下地材・ベストアンダー・下プラ・カーボンプラスターなど)

## STEP⑥

### ◆上塗り仕上げ

基準水量を守り材料を攪拌機で5分間よく練り約10分間練り置きをして再度2~3分攪拌機で練った後にご使用ください  
(季節により練りかげんをよく確認し水の調整を行いよく練ってご使用ください)



**【注意事項】**

SK(専用下地シート)→上塗り仕上げ施工の場合、下記の事が発生する恐れがありますので事前によく考慮をした上で施工を行ってください

●シートのジョイント部、ボードのジョイント部のクラック(ヒビ割れ)が生じることがある

- 入隅部に関しましてはクラック(ヒビ割れ)が生じやすい
- 室温が15℃以下になる恐れがある場合は、乾燥が遅く白華発生および凍害の原因となりますので、施工する場合は温度管理を厳重に行ってください
- 上塗り作業を行う場合また作業後の換気や室温には十分に配慮をしないと乾燥後に表面が光った状態になります。この状態で仕上がると壁材の機能が1/3に低下します
- 仕上げ材は1回塗りで仕上げてください。パターンづけは塗り付けた流れで行ってください
- おっかけ塗りは時間をおかずに乾燥する前に行ってください
- 半乾きの状態で鏝で触ると色ムラや模様の変化の原因になるので触らないでください
- 霧吹き等で水かけをしながらの施工は色ムラの原因になるので行わないでください
- 一度練った材料はその日に使用してください。練り置きはできません

**STEP①****◆SK(専用下地シート)施工**

※施工マニュアルは別紙を確認

**STEP②****◆上塗り仕上げ**

基準水量を守り材料を攪拌機で5分間よく練り約10分間練り置きをして再度2~3分攪拌機で練った後にご使用ください

(季節により練りかげんをよく確認し水の調整を行いよく練ってご使用ください)